

# 柳田邦男『人生の1冊の絵本』ブックリスト

岩波新書 2020.2

<b>Part.2</b>	<b>5.笑いも悲しみもあって</b>	<b>18冊</b>
	<b>6.木は見ている</b>	<b>16冊</b>
	<b>7.星よ月よ</b>	<b>19冊</b>
	<b>8.祈りの灯</b>	<b>17冊</b>
<b>計70冊</b>		

絵本と出会い、何かが変わっていくかもしれない……。  
 ところが何かを求めているとき、悲しみの中にいるとき、絵本を開いてみたい。  
 幼き日の感性の甦りが、こころの持ち方の転換が、いのちの物語が、人を見つめる木々の記憶が、  
 そして祈りの静寂が、そこにはある。  
 150冊ほどの絵本を解説しながら、その魅力を綴る。

## 5.笑いも悲しみもあって

1	なんとなく 笑えるって、 いい時間だ	<b>まめまめくん</b>	デヴィッド・カリ/文 セバスチャン・ムーラン/絵 ふしみみさを/訳	あすなろ書房 2016 1,100円	お人形のくつをはき、マッチ箱の中で眠るまめまめくんは、ちっちゃいけれど何でもできた。小学校へ行くまでは……。みんなとちよっと違う子にエールをおくる。
		<b>どうぶつえんは おおさわぎ</b>	二宮由紀子/文 あべ弘士/絵	文研出版 2015 1,430円	テンテンがなくなると「えんちようさん、たいへんです！」えんちようしつに、ソウのしいくかりさんが、どひこんできました。テンテンがたくさんあると「えんちようさん、たいへんです！」えんちようしつに、ソウのじいくかりさんが、どひこんできました。
		<b>こらっ、どろぼう</b>	ヘザー・テカヴェク/文 ビエール・プラット/絵 なかだゆき/訳	きじとら出版 2017 1,540円	「マックス、どろぼうを つかまえられるかい?」「なんだってつかまえて みせませうも!」ニンジンと、イチゴと、マメと、サクランボを、かたっぱしから 盗んでいくのは、誰?
		<b>108ぴきめのひつじ</b>	いまいあやの/作	文溪堂 2011 1,650円	眠れぬ夜エマはヒツジを数える。頭の中に1匹2匹…おや、108匹目のヒツジが現れず…。注目の日本人作家デビュー作の逆輸入版。
5	不条理な悲しみの 深い意味	<b>ごんぎつね</b>	新美南吉/文 箕田源二郎/絵	ポプラ社 1969 1,100円	ごんぎつねは、いたすばかりしている小ぎつねです。ある秋のこと、ごんは兵十の取った魚にいたすらをして逃がしてしまいました。実はその魚は兵十のお母が死ぬ間際に食べたかった魚でした。後悔したごんぎつねは…
		<b>ついていった ちようちよう</b>	新美南吉/文 山中現/絵	星の環会 2016 1,980円	新美南吉の名作「ついていったちようちよう」をやさしく繊細に描いた絵本。絵画のように鑑賞しながらイメージを膨らませることで、より深く主人公の気持ちを理解し感じることが出来ます。本版画家の山中 現によって生まれ変わった新たな新美南吉ワールドへ!
		<b>でんでんむしのかなしみ</b>	新美南吉/文 野見山暁治/絵	星の環会 2016 1,980円	「私の背中の殻の中には悲しみがいっぱいまっている」と友達に打ち明けたかたつむりは、誰でも悲しみを持っていることに気づき、前えて生きることを決心しました。
8	やっぱりじんとくる 純愛物語	<b>クロコダイルとイルカ</b>	ドリアン助川/作 あべ弘士/絵 映画『じんじん』事務局 発刊	メディアパル 2013 1,320円	でっかいでっかいクロコダイル。乱暴者でなんでも手当たり次第に食べていましたが、アヤカとなのかイルカに出会い…
		<b>ちいさいきみと おおきいぼく</b>	ナティーン・ブラン・コム/文 オリヴィエ・タレック/絵 磯みゆき/訳	ポプラ社 2013 1,540円	ぼくは一人だった。でも、君と出あって、そして、君がいなくなって……。様々な「だれか想う気持ち」に寄り添う物語。
10	童話という語り口の 深い味わい	<b>わるいわるい王さまと ふしぎの木</b>	あべはじめ/作	あすなろ書房 2016 1,540円	砂漠の真ん中にすむ王さまは、わがままで、いつもぶんぶん怒ってばかり。こんなに悪い王さまなんて、聞いたことがありません!でも、あるとき…
		<b>げんこつげんたろう</b>	くすのきしげのり/作 伊藤秀男/絵	廣済堂あかつき 2015 1,760円	げんげんこつげんたろう。誰にも言わないおいらの気持ち。じっくり読むと絵からお話が見えてくる…
		<b>彼岸花は きつねのかんざし</b>	朽木祥/文 ささめゆき/絵	学研教育出版 2015 1,650円	広島に原爆が落ちる少し前のこと。「あたしにばかされたい?」というきつねと出会った戦争は、原爆は、一瞬にして命とおもしろいものを奪う。遠い戦争の痛みはわからなくなっても、その悲しさなら気持ちを重なられるかもしれない。
13	少年が本に 魅せられるとき	<b>ぼくのブックウーマン</b>	ヘザー・ヘンソン/文 デイビッド・スモール/絵 藤原宏之/訳	さ・え・ら書房 2010 1,540円	今から、80年前のアメリカ。学校にかよえない不便な場所であつて、子どもたちへ図書館の本を運びつづける人たちがいた。
		<b>トマスと 図書館のおねえさん</b>	バット・モーラ/文 ラウル・コローン/絵 藤原宏之/訳	さ・え・ら書房 2010 1,540円	親切な図書館員と出会い、本を読むよこびを知ったトマス…。カルフォルニア大学学長の幼い日の思い出をもとにうまれた、心温まる感動の絵本。
		<b>図書館ラクダがやってくる 子どもたちに本をとどける世界の活動</b>	マーグリット・ルアーズ/著 斎藤規/訳	さ・え・ら書房 2010 1,540円	本を読むのを楽しみにしている子どもたち。それなのに本がない。世界にはそんな所がたくさんあります。それぞれの土地の図書館員やボランティアたちは、ラクダ、ソウ、自転車や船を利用し、あるときは、かついで本を届けています。
		<b>としよかんのよる</b>	ローレンツ・パウリ/文 カトリーヌ・シェラー/絵 若松宣子/訳	ほるぷ出版 2013 1,540円	ネズミをおいけてキツネは、図書館にたどり着いた。字の読めないキツネだが、毎晩通いはじめる。いったい、何があつたの?
17	生きるに値すると思えるとき	<b>サンパギータの くびかざり</b>	松居友/文 ボン・ベレス/絵	今人舎 2015 1,760円	リンは、サンパギータの花を糸でつなげてくびかざりを作ります。それを売ったお金で、病氣のお母さんに、ごはんを買って帰るためです。ところが、せっかく作ったくびかざりは、ちっとも売れません。
		<b>パパ・ヴァイト ナチスに立ち向かった盲目の人</b>	インゲ・ドイチュクローン/作 ルーカス・リュウゲンベルク/絵 藤村美織/訳	汐文社 2015 1,760円	ユダヤ人がユダヤ人というだけで、地獄の苦しみをあたえられていた。第二次世界大戦中のドイツ。一人の男がユダヤ人の命を救うために立ち上がりました。彼の名は、オットー・ヴァイト。

## 6.木は見ている

1	木は見ている、 人の生涯を	<b>最初の質問</b>	長田弘/詩 いせひでこ/絵	講談社 2013 1,650円	中学3年生の国語教科書にも掲載されている詩「最初の質問」。繰り返される問いかけが、いせひでこの絵とともに、深い思索へと誘う。
		<b>ならの木のみた夢</b>	やえがしなおこ/文 平澤朋子/絵	アリス館 2013 1,540円	「おみやげを買ってきてあげるよ」こどもがそれはまだ小さな男の子だったので、はっと目をかがやかせて言いました。ならの木と少年の、長い約束の物語。
3	木に育まれる 人間のこころ	<b>わたし木、こころの木</b>	いせひでこ/絵・文	平凡社 2014 1,650円	木にまつわる物語・絵本を描きつづける作家いせひでこ。木と人とのまじわりを描いた珠玉の12編。木が放ついのちの輝きへの賛歌。
		<b>フランシスさん、 森をえがく</b>	フレデリック・マンソ/作 石津ちひろ/訳	くもん出版 2014 1,760円	毎朝、フランシスさんは、鉛筆と消しゴムと画用紙を持って、森へ向かいます。木の幹をはいがかり、ふかふかのコケの上に座って、森の木々を、一つ一つ丁寧に描いていきます。でも、あるときその森が滅ぼされそうになったのです。

5	花のいのち、 人のいのち、 しみじみと	<b>はじまりのはな</b>	マイケル・J・ローゼン/文 ソーニャ・ダノウスキ/絵 蜂飼耳/訳	くもん出版 2014 1,650円	渡り鳥のローザはじぶんのほっぺたと同じ色をした“ほっぺのはな”が大好き。秋になり旅立つ時がきても“ほっぺのはな”のたねを手放さない。
6		<b>ルピナスさん</b> 小さなおばあさんのお話	バーバラ・クーニー/作 掛川恭子/訳	ほるぷ出版 1987 1,430円	おばあさんがまだ少女だった頃、「世の中をもっと美しくするために何かをしてほしい」という約束を、おじいさんと交わしました。そしておばあさんになったときに起こした行動は、次の世代にも引き継がれる、とてもステキなことでした。
7	森を守った物語	<b>木はいいなあ</b>	ジャンス・メイ・ユードリイ/作 マーク・シーモント/絵 さいおんじさちこ/訳	偕成社 1977 1,100円	登ったり、落ち葉で遊んだり、こかげで涼んだり…木っていいよね。
8		<b>モミの手紙</b>	ロバート・フロスト/作 テッド・ランド/絵 みらいなな/訳	童話屋 1999 1,650円	農夫が育てているのは、ルサムモミの木で、断じてクリスマスツリーなんかにする木ではありません。農夫は、反だちに手紙を書き、自慢のルサムモミの木を一本丸ごと絵に描いて送ってやりました。…
9		<b>森のプレゼント</b>	ローラ・インガルス・ワイルダー/作 安野光雅/絵・訳	朝日出版社 2015 1,430円	「大草原の小さな家」の原作『大きな森の小さな家』のクリスマスを安野光雅の絵と訳で描き下ろした家族愛いっぱいのお話。
10		<b>すばこ</b>	キム・ファン/文 イ・スンウォン/絵	ほるぷ出版 2016 1,650円	巣箱は、人が作った鳥の家です。素材も、形も、大きさも色々。身近な自然保護であり、作ってみれば毎日ちよっと楽しくなる巣箱、じつはドイツの貴族の男性が初めたって、知っていましたか？
11	落ち葉たちの 円舞曲	<b>木の葉つかいは どこいった？</b>	ビーナ・イラーチェ/文 マリア・モヤ/絵 小川文/訳	きじとら出版 2015 1,760円	秋になると、木の葉つかいがやってきます。ぼうをふって、葉っぱたちにすてきな飛び方を教えるのです。でも、今年の秋は…木の葉つかいがこないだなんて、どうやって落ち葉になればよいのでしょうか！
12		<b>さわさわもみじ</b>	ひがしなおこ/作 きうちたつろう/絵	くもん出版 2013 880円	秋の訪れを感じさせてくれるもみじ。風が吹くとさわさわわわともみじが舞って、周りの景色を赤や黄色に染める。そんな秋の風情を味わえる一冊。
13		<b>こねこのえんそく あきのもり</b>	竹下文子/文 さこももみ/絵	ハッピーオウル社 2016 1,430円	子猫の兄弟、えいたとびいことしーちゃんが、ある秋の日にとんぐりもりへ遠足に出かけたよ。なにをして遊ぶかお楽しみ！
14		<b>鹿踊りのはじまり</b>	宮沢賢治/作 たかしたかこ/絵	偕成社 1994 1,760円	忘れた手拭いを取りに戻った嘉十が見たものは、手拭いを囲んで相談しあう鹿たちの姿だった？ 清々しくも心温まる名作の絵本化。
15	葉っぱの旅、 なんと深い感動が…	<b>かえでの葉っぱ</b>	デイジー・ムラースコヴァー/文 関沢明子/訳 出久根育/絵	理論社 2012 1,980円	美しい風景の中を旅する、ある葉っぱの物語。風に乗り、川を下り、雪の下で春を待ち…季節の中で姿を変えつつ、葉っぱははがて…。
16		<b>もりのてぶくろ</b>	八百板洋子/文 ナターリヤ・チャルシナ/絵	福音館書店 2010 990円	黄色い葉が1枚、森の小道に落ちていた。通りすがりの動物たちはみな、そっと手をあててゆき…。
<b>7.星よ月よ</b>					
1	星は見えない夜も そこにあつて	<b>いつでも星を</b>	メアリ・リン・レイ/文 マール・フレイジー/絵 長田弘/訳	ブロンズ新社 2012 1,650円	星をめぐる詩の絵本。森の苔、たんぽぽの綿毛、雪の結晶…そして夜空を見上げれば、すぐそばにいつでも星はこんなにあるんだ。
2		<b>この世界いっぱい</b>	リス・ガートン・スキャンロン/文 マール・フレイジー/絵 長田弘/訳	ブロンズ新社 2011 1,650円	愛する人ひとと共に繰りかえされる日々への喜び。「世界はやっぱり美しい」と信じられる愛と信頼のメッセージ絵本。
3	まるい月に 目を輝かせる 赤ちゃん	<b>きょうはそらに まるいつき</b>	荒井良二/作	偕成社 2016 1,540円	ふと見あげた空にみつけた、まんまるいお月さま。町でくらす人たちに、山や海のいきものたちに、やさしい光がふりそそぐ夜。
4		<b>よるのかえりみち</b>	みやこしあきこ/作	偕成社 2015 1,430円	抱っこされて家に帰る男の子の目に、夜の街の情景が映る。一日の終わりを思い思いに過ごす人々を静謐なトーンで描き出す、おやすみの絵本。
5	強烈な色が ひらく異界	<b>あおのじかん</b>	イザベル・シムレー/文・絵 石津ちひろ/訳	岩波書店 2016 1,870円	夕ぐれのと、空は水色から濃紺へだんだんと色を変えます。とくべつな「時」をあげよう美しい絵本。
6		<b>はくぶつかんのよる</b>	イザベル・シムレー/文・絵 石津ちひろ/訳	岩波書店 2017 1,980円	だれもいない夜の博物館で、昆虫や恐竜や動物がいっせいに目をさまします！ 圧巻のナイトミュージアム。
7		<b>シルクロードのあかい空</b>	イザベル・シムレー/文・絵 石津ちひろ/訳	岩波書店 2018 1,980円	美しいチョウとの出会いを求めて、若き昆虫学者が中国北西部を旅する。圧倒的な画力で描く壮麗な世界。
8	静寂のなかの音、 のどを潤す冷水	<b>よるのおと</b>	たむらしげる/作	偕成社 2017 1,540円	男の子が池のほとりを歩いておじいさんの家につくまでのほんの数秒。その間におこる小さなドラマとそこにひろがるゆたかな世界。
9		<b>よあけ</b>	ユリー・シュルヴィッツ/作・画 瀬田貞二/訳	福音館書店 1977 1,320円	静まりかえった夜明け前の湖。やがてさざなみが立ち、もやがこもり、こうもり、蛙、鳥たちが目を覚ました。
10		<b>みずくみに</b>	飯野和好/絵・文	小峰書店 2014 1,540円	里山うまれのちよちゃんは沢遊びが大好き。犬のくろとおいしい水をくみにいく。新緑や沢の水、山の生き物を生き生きと描く。
11		<b>おじいさんとヤマガラ</b> 3月11日のあとで	鈴木まもる/作・絵	小学館 2013 1,540円	おじいさんは鳥が大好き。ヤマガラがヒナを育てるために巣箱をつけてあげている。震災の年も、いつもと同じように巣箱をつけていた。今年もヒナは巣立つことができるだろうか？ 心配でたまらないが…。
12	目に見えない ものこそ	<b>うみべのいす</b>	内田麟太郎/作 nakaban/絵	佼成出版社 2014 1,430円	浜辺にぼつんとある椅子は、座りたいと思えば、誰だって、いつだって、その椅子は受け入れてくれる。ずわっているのはだれかしら？
13		<b>まちのひろばの どうぶつたち</b>	井上コトリ/作	あかね書房 2015 1,320円	ある町の広場に動物たちが暮らしていた。でも知っている人はだれもいないのはなぜ？ ふしぎな動物たちのやさしいお話絵本。
14		<b>やぎのしずかの しんみりした いちにち</b>	田島征三/作	偕成社 2015 1,430円	悲しさや、美しさがむねにしみて、しみりしてしまっただけか。励ましてくれたのは、いつもの反だちと、やさしい風だった。
15	夢幻の世界に こころ漂わせて	<b>ねむりどり</b>	イザベル・シムレー/作 河野万里子/訳	フレーベル館 2018 1,870円	さあ、パジャマを着て、冒険に出かけよう。眠っている動物を起こさないように、静かに、足をふみだして…。眠りに入るまでのひとときを冒険への準備にみだして、眺むものを心地よい眠りへ誘う、シムレーの美しい絵本。
16		<b>100年たったら</b>	石井睦美/文 あべ弘士/絵	アリス館 2018 1,650円	会いたいーライオンと鳥がたどる、せつなく壮大な物語。
17	人生の最後の 「贈り物」とは	<b>こころのおと</b>	ピーター・レイノルズ/文・絵 なががわちひろ/訳	主婦の友社 2016 1,430円	あふれる音を、心のままに弾いていた少年ラジ。その音を愛した父は、息子の才能を伸ばそうと音楽教師を招くが…。親だからこそ、子どもへ伝えることができる人生の喜びとは？
18		<b>3日ずつのおくりもの</b>	レミ・クルジョン/作 こだましおり/訳	文溪堂 2016 1,650円	長生きできるのは、幸せなことだけど、もっと幸せなのは…？ 子うさぎと、ひいおじいさん…見送る者と見送られる者との心温まる交流を通じ、幸せな生とは、幸せな最後とは何か…

19		<b>ありがとうエバせんせい</b>	ヒラリー・ロビンソン/文 マンディ・スタンレイ/絵 きむらゆかり/訳	絵本塾出版 2015 1,430円	これはエバ先生と私たちのクラスみんなのお話です。
<b>8.祈りの灯</b>					
1	祈りの灯、 消えないように、 消えないように	<b>きょうというひ</b>	荒井良二/作	BL出版 2005 1,430円	少女が今日という日のために身につけるものをこしらえ外に出て今日という日のためにろうそくの火を灯します。はじめはさきやかにそして次第に少女の世界全体を。消えないように消えないように……。
2		<b>雪の花</b>	セルゲイ・コスロフ/原作 オリガ・ファジェエヴァ/絵 田中友子/文	偕成社 2018 1,980円	「雪の花がなくちゃ、クマくんは死んじゃうかもしれない…ほくがきつと見つけてくる！」高い熱で苦しむ、なかよしのクマくんのため、ハリネズミは森の奥へと駆け出していきます。どこに咲いているのか誰も知らない、「雪の花」を探しに…
3	亡き人の実感が ここにストンと	<b>いつまでもいっしょだよ</b> 日航ジャンボ機御巣鷹山墜落事故で逝った健ちゃん	みやじまくにこ/作・画	扶桑社 1988 880円	事故後、深い悲しみに沈んでいた私達家族を温かい心で包み、心の支えとなってくれた亡き子と同年代の見知らぬ子どもたちへ「ありがとう」の気持ちをこめ、又、犠牲となった520人の人々の命の重みを、とりわけ、幼い50人の子どもの心への鎮魂の想いをこめて、この絵本を作りました。
4		<b>パパの柿の木</b>	谷口真知子/作 亭島和洋/絵	星湖舎 2016 1,760円	ありきたりな日々がとっても大切。日航機事故で突然夫を亡くし、絶望の中から柿の木の成長に励まされながら子どもたちと懸命に生きてきた女性が、命の大切さを伝える。
5		<b>ずっとつながってるよ</b> こぐまのミシユカのおはなし	入江杏/絵・文	くもん出版 2006 1,100円	2000年12月31日未明に東京都世田谷区で起きた「事件」。「命の尊さを伝えたい」という思いとともに、不条理な別れに遭遇した方々の悲しみを、この絵本が少しでもいやすことができるなら…
6	空を翔ける 空想家のメッセージ	<b>おばあさんのひこうき</b>	佐藤さとる/作 村上勉/絵	小峰書店 1979 1,650円	おばあさんは、編み物の名人です。ちょうちんの模様を編んでいると、編み物が、ずういっと、浮かび上がりました。…さて、おばあさんは、このふしぎな編み物で、どんなことをするのでしょか。
7		<b>リンドバーグ</b> 空飛ぶネズミの大冒険	トーベン・クールマン/作 金原瑞人/訳	ブロンズ新社 2015 2,420円	知りたがりやの小ネズミは、人間の図書館で何日も本を読みふけていた。ある日、仲間のところに戻ってみると、ネズミは1匹もいない。ハンブルグからニューヨークへ小さなネズミが、大西洋を飛んだ！…
8		<b>そらいろ男爵</b>	ジム・ボム/文 ティエリー・テデュー/絵 中島さおり/訳	主婦の友社 2015 1,430円	そらいろの飛行機でだれにもじゃまされずに鳥をながめていたそらいろ男爵。けれども、地上で、戦争がはじまって…
9	言葉のない絵本の インパクト	<b>ぞうさん、どこにいるの？</b>	ハルー/作 柳田邦男/訳	光村教育図書 2015 1,430円	ぞうさん、どこにいるの？おうむさん、どこにいるの？へびさん、どこにいるの？森の木さんたち、みんなだいじょうぶ？
10		<b>やめて！</b>	デイビッド・マクフェイル/作・絵 柳田邦男/訳	徳間書店 2009 1,760円	「No」という一言が世界を変える。静かに「暴力反対」を訴える。
11		<b>わたしの「やめて」</b>	自由と平和のための京大有志の会/文 塚本やすし/絵	朝日新聞出版 2015	「戦争と平和を見つめる絵本」安保法制に反対する「京大有志の会」が発表し、大きな共感を呼んだ声明書。その「こども語訳」が絵本になった一冊。
12	空襲、 ここに刻まれる あのこの死	<b>あのこ</b>	今江祥智/文 宇野亜喜良/絵	BL出版 2015 1,980円	終戦間際のある村で、疎開してきた少女「あのこ」は、馬と話すことができるという。村の子どもたちは庄屋の馬を連れだして…
13		<b>一つの花</b>	今西祐行/文 鈴木義治/絵	ポプラ社 1977 1,100円	おとうさんが戦争に行く日、見おくりのプラットホームで幼いゆみ子にさしだしたいちりんの花、それは……。
14		<b>火垂るの墓</b>	野坂昭如/著	ポプラ社 2006 627円	昭和二十年、戦争のなか親も家も失い、二人きりになってしまった兄妹。十四歳の清太と、四歳の節子が、つたなくもけんめいに生きようとする姿をえがいた名作。〈ポプラポケット文庫〉
15	戦争や災害を どう伝えるか	<b>タケノコごはん</b>	大島渚/文 伊藤秀男/絵	ポプラ社 2015 1,430円	ハワイが小学校にいたところ、日本の国は中国と戦争をしていました。「世界のオーシマ」、映画監督の大島渚が、世界中の子どもたちへ贈るメッセージ。
16		<b>とどけ、みんなの思い</b> 放射能とふるさと	夢ら丘実果/文 渡辺あきお/絵	新日本出版社 2014 1,650円	キジトラ猫のチャーサの物語。あの事故さえなければ、今も、ほくは、野山を駆けまわっていたら——原発事故で福島を追われた猫が語る、ふるさとへの思い。
17		<b>ふくしまからきた子</b>	松本猛・松本春野/作 松本春野/絵	岩崎書店 2012 1,430円	広島市にすむ小学生で、サッカーが大好きなだいじゅ。原発事故をきっかけに母の実家、広島市に引越してきたまや。二人の交流を通じて、原発と、私たちの未来を考える絵本。

「大人こそ絵本を」  
「絵本は人生に三度（幼少期、子育て期、中高年期）」  
「大人の気づき、子どものころの発達」  
という呼びかけを始めて、二〇年になる。  
合理主義、効率主義、利己主義、ネット依存が支配的になっている索漠とした時代状況のなかで、この本が人々のところと人生の歩みに少しでも温もりをもたらすことができたらと願っている。  
私は人間のいのちやこころを不条理に破壊する戦争、災害、事故、公害、病気、凶悪事件、貧困などについて、その根源にある問題を明らかにしたいという思いで、半世紀余りにわたり取材・調査・執筆の活動を続けてきたが、特に八〇歳を過ぎてからは、それらの仕事をテーマ別に総括する作品群の執筆に取り組んでいる。  
この本は、その一冊でもある。  
(『人生の1冊の絵本』あとがきより 柳田邦男)

『砂漠でみつけた一冊の絵本』から「大人にすすめる絵本」のブックリストを作成しました。  
柳田邦男先生から資料提供をいただき、次に「今こそ大人が泣く絵本」のブックリストを作成しました。  
そして、ここに『人生の1冊の絵本』で紹介されている138冊のブックリストを作成しました。  
「その絵本と出会い、何かが変わっていく……」（帯の言葉より）、本当にそう思います。  
ぜひ手に取って読んでみてください。そして、「読み聞かせ」してください。その輪が広がっていくことを期待して……  
野村邦重 2022.03.24